



RICOH ASIA INDUSTRY

資材部 部長 松本 稔 (写真左)
 資材部 担当部長 毛 勁松 (中央)
 資材部 副經理 李 丹 (右)

中国でのグリーン調達

中国の仕入先企業とのパートナーシップで、

欧州RoHS指令対応の生産体制を構築しています。

リコーアジアインダストリー (RAI) は、1991年5月、中国・深圳 (シンセン) 市に設立されたリコーグループの主要生産拠点のひとつで、ここでつくられた製品は日本をはじめ欧州・米州などに出荷されています。RAIで環境負荷の少ない製品をつくることは、世界の環境負荷を下げることに繋がります。1998年1月にはISO14001の認証を深圳でいち早く取得しました。2001年からは、仕入先企業の協力を得てグリーン調達を推進しており、2004年度中に、欧州RoHS指令*に対応した生産体制の構築を完了する予定です。

* EU電気電子機器危険物質使用制限指令 (Restriction of Hazardous Substances Directiveの略)
 電気電子機器への特定の化学物質の使用を制限するEU指令で、2003年に発効。加盟各国は、2004年8月13日までに国内法を整備、2006年7月1日より規制開始。

Q

環境負荷の少ない製品をつくるために、重要なことは何ですか？

A

ライフサイクル全体で環境負荷の少ない製品をつくるためには、環境負荷の少ない工場で作られた、環境負荷の少ない部品を調達するグリーン調達活動が重要です。そのためには、仕入先企業にEMSや化学物質の管理体制を構築してもらう必要があります。リコーグループだけで環境負荷の少ない製品をつくることはできないのです。

Q

中国でのグリーン調達活動はどのように進めましたか？

A

まずはじめに2001年8月、「グリーン調達方針説明会」を開催し、仕入先企業に対して、2003年3月までにISO14001の認証取得か、リコーガイドラインをクリアするEMSの構築をお願いしました。当時中国では先駆的な活動でしたが、仕入先企業からは「環境保全は必然的趨勢であり、リコーグループからEMS構築の支援を受けられることは得難い契機である」という声も寄せられました。

Q

化学物質に関してはどのような取り組みを行いましたか？

A

2002年10月に「グリーン調達基準説明会」を開催し、4種の化学物質 (鉛・六価クロム・ポリ塩化ビニル・カドミウム) の全廃計画を説明しました。これに伴い、仕入先企業に対して、部品の化学物質情報を「環境負荷調査データベース」に登録すること、および使用禁止物質の「不使用証明書」の提出をお願いしました。さらに2003年8月には、「分析機」を導入し、受入れ部品の含有化学物質のチェックを開始しました。

RAIのグリーン調達スタッフ



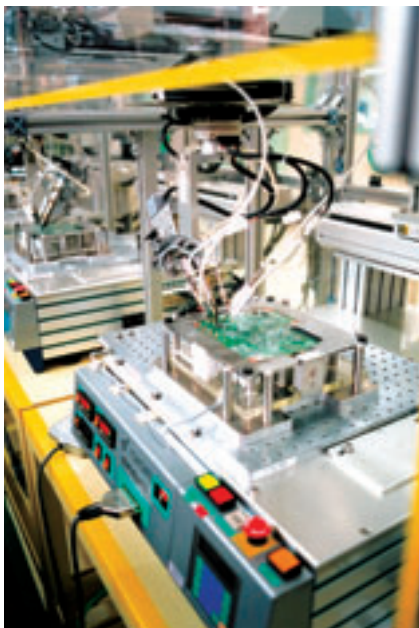
検査済の受入れ部品

Q 今後、仕入先企業に対してどのような支援を行う予定ですか。

A 2004年1月に「第2回 購買方針説明会」を開催し、「グリーン調達基準の運用マニュアル」を仕入先企業に配布・説明しました。このマニュアルには、化学物質の管理体制の構築方法、仕入先企業の仕入先管理の方法などが掲載されています。今後は、実際に仕入先企業を訪問し、「部品の仕様・製造方法」「仕入先企業の生産体制」のチェックや支援を行っていきます。仕入先企業とのパートナーシップで環境負荷の少ない製品作りを進め、RoHS指令にも対応していきます。



RAIの仕入先企業



鉛フリー化したプリント基板の製造工程

● 仕入先企業のEMS構築支援から化学物質全廃へ

2001年8月「グリーン調達方針説明会」開催

仕入先企業にEMSの構築をお願いするとともに、改善事例や関連法規制を掲載した「支援マニュアル」を作成・配布した。改善

事例を共有することにより、環境改善がコストダウンにつながることを多くの仕入先企業が知り、EMS構築がスピードアップした。

2002年4月「環境負荷情報調査説明会」開催

製品含有の化学物質削減など、今後のグリーン調達の展開について説明し、協力をお願いした。



RAIでの「グリーン調達基準説明会」

2002年7月「化学物質のグリーン調達基準」制定

「グリーン調達基準」(中国語版)



2002年10月「グリーン調達基準説明会」開催

2004年度までに4化学物質を全廃する計画を説明し、「不使用証明書」の提出をお願いした。また、化学物質に関する情報収集をスピードアップするために、「環境負荷

調査データベース」への部品の環境負荷情報の登録を依頼した。04年2月現在、仕入先企業120社中70社が利用している。

2003年1月「第1回 購買方針説明会」開催

仕入先企業とWIN-WINの関係を築くために、リコーは環境活動に関しても支援していく方針を説明した。

2003年8月「分析機」導入

分析機を導入することで、化学物質の入口管理を強化。カドミウムと鉛の測定を行っている。



2004年1月「第2回 購買方針説明会」開催

世界の化学物質規制に対する動きと、リコーグループの化学物質管理に対する考え方を再び説明し、化学物質の管理の徹底をお願いした。また「グリーン調達基準の運用マニュアル」を配布した。



2004年3月「化学物質管理に関する自己診断シート」配布

今後は、仕入先企業の「自己診断」の結果に基づいて化学物質の管理体制の構築支援などを行っていく。